

電子書籍の基礎知識

2010年11月20日

イーパ部副部長 上田佳子

電子書籍って？

簡単言うと……

デジタル化した形の読み物のこと。

実はブログだってメルマガだって pdf だって携帯小説だって、
大ざっぱに言えば全部電子書籍。

もうすこし細かくいうと、
読み物をデジタル化することで、持ち運べるかたちで、
ネットが繋がっていないところでも読めるようにされているもの

紙の印刷物と比較した電子書籍のメリット

- 文字の拡大や、画面の色を変えられる（白黒反転等）
- 音声読み上げができる（視覚障害者の方でもよめる。ながら読みできる）
- 動画、アニメーションの埋込み（ハリーポッターの世界？）
- 在庫切れがない
- 流通コスト削減（直接ユーザーに販売）
- アクセスの取得、効果測定ができる（雑誌など）
- 場所をとらない（大量持ち運び）
- テキスト検索が出来る（辞書も対応）

紙の印刷物と比較したデメリット

- フォーマットがバラバラ（何台リーダーがいるの?!）
- 独自フォーマットだと倒産したら読めない？
- 横文字からきてるため、縦書きやルビ、禁則処理など、日本語の表示に弱い
- 見え方は制作側では制御できない
- 機械が必要（破損、停電の問題）
- 価格設定（WEBなどの無料コンテンツとの垣根?）
- 著作権の保護（コピー）
- 玉石混淆（良いのも悪いのも同じ並び）
- 読者へのアプローチ、反則が難しい

電子書籍はどんな風にできているの？

構成するのはこの二つ

- 電子書籍リーダー（デバイス + アプリケーション）

 - 電子書籍を読むための環境

 - 今年の電子書籍ブームの火付け役：**iPad**、**Kindle** など

- コンテンツ（文字系・雑誌系）

 - 電子書籍のデータ

 - 作家が作るコンテンツ

【1】電子書籍リーダーってどんなものがあるの？

◆デバイス（機械部分）

- 電子書籍専用のデバイス

電子書籍を閲覧するための専用機械

(Eink) **Kindle**、Sony Reader、nook

(液晶) GALAPAGOS

- 汎用デバイス

電子書籍を閲覧する以外にも様々な機能をもつ機械

(液晶) **iPad**、iPhone、Galaxy Tab、タブレット PC、パソコン、

携帯電話

【1】 電子書籍リーダーってどんなものがあるの？

◆専用デバイスは、データを入れるだけで閲覧できる

◆汎用デバイスでは、閲覧アプリケーションまたは独立起動型

- 電子書籍閲覧アプリケーションにデータを読みこむ

iPad、iPhone：iBooks、i 文庫 HD、**Kindle**、CloudReader、
GoodReader、stanz

パソコン：Adobe Digital Editions、EPUBReader（Firefox アドオン）

- 独立起動型のアプリケーション

iPad、iPhone：元素図鑑、WIRED、Alice in Wonderland

パソコン：AIR アプリケーション（Times）、etc

Kindle ってなあに？

Kindle 書籍 = Kindle のコンテンツ部分

ネットの書籍販売 amazon.com で販売されている、電子書籍のこと。

AZW という独自形式。(最近新しい形式もあります。)

Kindle デバイス = Kindle 書籍を読む機械

amazon.com で販売されている、電子書籍リーダー

amazon.co.jp では取扱しておらず、amazon.com で購入可能

Kindle 対応書籍は、amazon.com (Kindle Store) で購入可能。

amazon.com での販売なので、ほぼ英語の書籍。

チャレンジャー？な日本人が出版している例もあり、日本語コンテンツも少しあります。自炊した pdf や、テキストなども、表示可能。アメリカの電子書籍リーダーではシェア No.1 (Nook、Sony Reader が後を追う。)

なぜ今、日本で Kindle が騒がれているの？

2010年8月発売の Kindle で、日本語対応。(中国、韓国語なども)

日本語フォントが入っているので、データがそのまま読める。

(ただし、メニューなどは全て英語)

amazon DTP (Digital Text Platform)

<https://dtp.amazon.com/mn/signin>

で、テキストさえあれば、簡単に出版が可能。(ただし現在は日本語は非対応)

非推奨だが、PDF を使うことで日本語の出版も可能に。

英語だけだった DTP がフランス語、ドイツ語に対応したので、日本語対応の日も近い……のかも？

Kindle のメリット

Kindle 書籍

海外の書籍が待たずに安価で手に入る。(印刷書籍より安価な上、送料もゼロ)

Windows、Mac、iPad、Android など、様々なデバイスに向けたアプリが用意されているので、Kindle デバイスがなくても利用可能。

共有機能 (しおり、アンダーライン) 読みかけの続きを別デバイスで読める。

新聞の Push 配信あり。(英語版の毎日新聞、朝日新聞は月 9.99 ドルで購読可能)

url リンクは、クリックで web の表示が可能。(web サイト紹介の書籍に便利！)

Kindle デバイス

3G モデルは世界どこでも 3G 回線によるネットが無料！ (通信費は amazon 持ち)

充電が長持ち (2 週間くらいは充電しなくて平気)

目にやさしい (反射式の E-Ink)

軽い (240g) iPad の 1/3 程度。片手で持てる。左利き対応。

安い (\$139) 円高のおかげで、送料入れても 15,000 円を切る

自作データの転送が簡単 (特別なソフト要らず)

英語の書籍は、読み上げにも対応。英英辞書同梱。(英辞郎を入れると英日辞書も)

Kindle のデメリット

Kindle 書籍

まだまだ書籍が少ない。

日本語の書籍がほとんどない。

amazon.com のアカウント、クレジットカードが必要。

amazon.com での購入なので、英語が必須。

Kindle デバイス

メニューなど基本部分は英語。

モノクロ。(E-ink では唯一富士通の FLEPia—フレッピア—がカラー対応)

液晶に比べるとページめくり時に反応時間がかかる。

日本語入力ができない。(web ベースで対応しているものはあり)

移動キーが押しにくい。

テキスト主体のものには良いが、レイアウトは無惨。

iPad との比較 (全くの別物なので比較はおかしいけれど……)

重さ

Kindle 片手で読める。電車内でも問題なし。

iPad 外で読書は辛い重さ。家またはカフェなどのテーブルが欲しい。

バッテリー

Kindle 減らない！少なくとも 1 週間程度の旅行では充電器を持ち運ぶ必要は無い。

マイクロ USB 対応なので、ケーブルと PC があれば場所を選ばない。

iPad ノートパソコンに比べて長いとはいえ、せいぜい 1～2 日程度。

日本語対応

Kindle 日本語の文字に対応はしているものの、デバイスのメニューなどは全て英語。

また、入力も英語のみなので、検索で日本語は利用できない。

iPad 完全に日本語対応。外部キーボードも利用可能。

表示・操作

Kindle E-Ink インク利用。全く目が疲れない。印刷されているのかと思うくらい。

モノクロなので、表紙画像などはそれを考慮したデザインが必要。

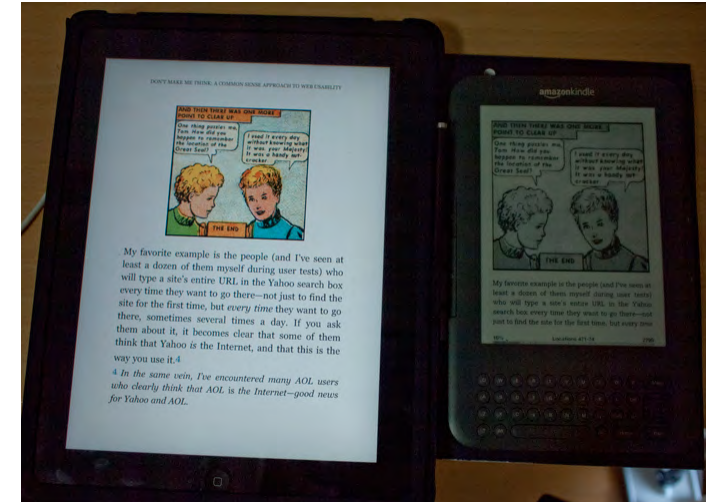
カーソル移動は面倒。自作データの同期がマシンを選ばず楽。

iPad フルカラーで美しい。画面の切り替わりが早く、映像も可能。

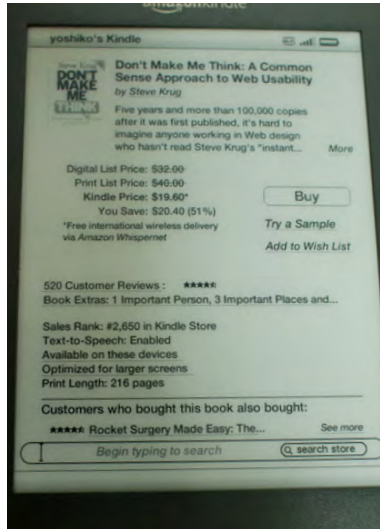
但し日中は画面の反射が辛い。夜間はバックライトで読めるので便利。

マルチタッチのタッチパネルはアプリごとの操作に悩むが、便利。

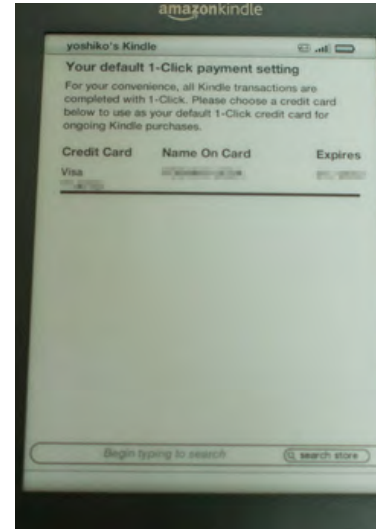
自作データの同期で iTunes を使うのが面倒。



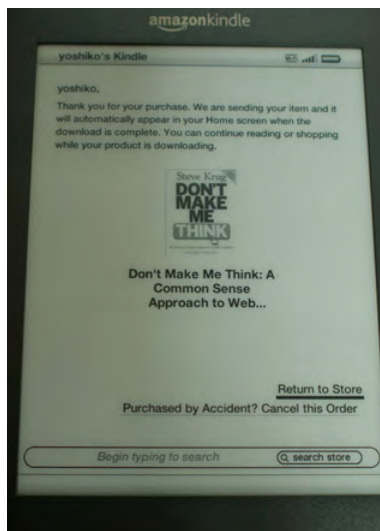
Kindle で本を購入するには



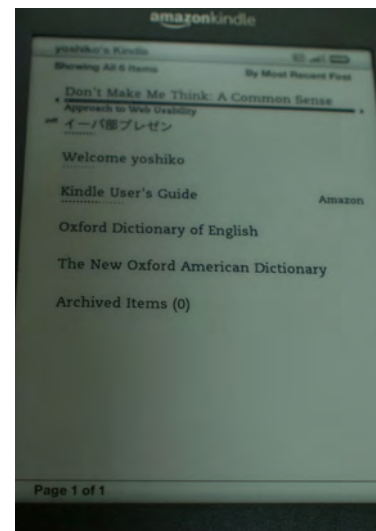
3G 対応のものを購入すると、そのままネット利用 OK。wifi モデルの場合は wifi 環境で。menu ボタンからアマゾンへ行き、書籍を検索し、購入画面に進みます。



Kindle を購入したときのアカウントに紐づけられています。カード確認して購入。



購入完了画面です。ダウンロードが始まります。



HOME に戻ると購入した書籍が表示されています。

※ DON'T MAKE ME THINK は、web のユーザビリティの本です。面白いですよ！

【2】コンテンツのフォーマットはどんなものがあるの？

次世代 XDMF (シャープ)

AZW (キンドル)

EPUB (日本語は未対応)

青空文庫形式 (ルビも対応)

.book

PDF

テキスト

その他リーダー毎の独自フォーマット多数！

【3】 どのフォーマットで作れば良いの？

雑誌、絵本、写真集 (Win、Mac、iPad、Android、etc)

レイアウト保持が必須のもの、インタラクティブ要素が効果的なもの
(画像にして) アプリ、PDF、FLASH

小説など、文字が主体のもの (Kindle は、こちら)

テキストデータを基本として、様々な入稿形態に対応できる形
規準となるフォーマットを用意して、各社からの変換ツールなどで、各社の仕様に合わせたものを入稿する。EPUB などで入稿したら、Store 側で DRM 掛けて販売、という形がありがたい。
Kindle は EPUB 対応してないけれど、EPUB データからの変換ツールあり。(Kindlegen)
amazonDTP はテキストを用意すると、AZW に変換される。DRM の有無も選択可能。
amazon 配布で、InDesign から AZW 書き出しのプラグインも！
→出版社の役割として、様々なフォーマットで対応（ストアに卸す？）する、という仕事が増えるのかも。

DRM (Digital Rights Management) について

DRM とは、いわゆるコピーガード。

デジタルだからといって、好き放題にコピーが可能だったら、著作者にお金が入らない。

電子書籍では、電子書籍リーダーと電子書籍コンテンツを結びつけることによって、著作権保護を行っている。

Kindle Store で購入した書籍は、Kindle (リーダー) でしか読むことができない。

ただし、Kindle リーダーは、Windows や Mac 向けフリーソフト、iPad や Android 向け無料アプリなど、様々なデバイスで読書環境が用意されており、デバイスというよりも、アカウントに紐づいています。

iPad 販売で Kindle が打撃を受けるか、と思われたものの、逆に Kindle 書籍の売り上げが向上。

iPad(iPhone)の iBooks Store での書籍が汎用的な EPUB だといっても、DRM がかけられており、他の EPUB 対応 Reader で読むことはできない。

取扱書籍の多い環境が、読者にとっての一番の選択肢となる。

今後課題となっていくもの

- ・ 著作権の保護

コピー保護の対応と、オープン化のバランス

- ・ デバイス毎の対応

ブラウザ戦争のようなことが起こり始めている

- ・ 課金方法

価格が安いので、直接回収は非現実的？ PayPal が普及すればハードルが下がるかも。
AppStore などどこかを通して販売するのが簡単。

- ・ 制作側の対応

メーカー毎のフォーマットは高額なデバイスが必要になったりする。

実際にさわってみよう！